

63号 2020年10月

News Letter

待ち望め 主を。

マネージャー 伊藤禎市

多くの祈りと励ましと支えて下さるすべての方にこころより感謝いたします。

「教会の・・・教会による・・・教会のための・・・」

これは奥多摩福音の家が2008年から打ち出しているスローガンです。

1951年から宣教と教会形成をはじめたドイツ・リーベンゼラミッションが救われた信徒の信仰成長、研鑽、交わりのお場が必要との考えから、1965年に祈りと献金によって奥多摩福音の家は設けられました。

それから約50年。1992年にはリーベンゼラ・キリスト教会連合を含む4団体（リーベンゼラ・キリスト教会連合・日本新約教団・単立キリスト教会連盟・北海道福音教会協議会）によるJECA（日本福音キリスト教会連合）の発足。千年に一度の大震災を10年前に経験したばかりだということに、いまや世界中にパンデミックが起こり既存の教会は毎週の礼拝も各集会も交わりも賛美も様々な制限が掛けられています。その様な今「教会とは？礼拝とは？」と今まで当たり前のような習慣や生活のあり方を問いかけられているように思います。

奥多摩福音の家はキャンプ伝道（宿泊伝道）のお場として祈られ、支えられ、用いられてきました。それは「日常から離れ、寝食を共にしながら集中してみことばと向き合い、心とからだを主に向けられる場所」でした。しかし今は、集まること、交わること、声を出して賛美することを控えるように求められ、キャンプ場は働きそのものを制限された形になってしまっています。

Withコロナ、新しい生活様式、都市型一極集中の生活の見直しなどと様々なことが言われている中でキリストのからだである教会は今、なにが求められているのでしょうか。そして教会のからだの一部である奥多摩福音の家に何が求められているのでしょうか。

主は集まれず、交われず、声をあげて賛美をささげることのできない今を喜んではおられないと思います。しかし今を許容されておられる主は、私たちにワクワクの開拓と普及までを耐える期間として過ごすだけではなく、キリストが何を問いかけ何に気づかせようとされておられるのかに耳を傾けて待ち望むように求めていらっしゃると思います。

詩篇27：14

待ち望め 主を。雄々しくあれ。心を強くせよ。待ち望め 主を。



夏の主催キャンプ報告

キャンプコーディネーター 大通堅

いつも主催キャンプの働きを覚え、祈り支えてくださりありがとうございます。今年の4月の時点で、2020年の夏の全主催キャンプ開催が中止となりました。しかし、子供たちに何かできることはないかと考え、急遽オンラインでの小学生キャンプと中高生キャンプを企画しました。全学年対象の小学生キャンプは中野島キリスト教会の國分広士先生がパペットやパワーポイントを使ったわかりやすいメッセージをして下さいました。申し込みをして下さった方々には3回のメッセージ動画、奥多摩のキャンプの雰囲気味わえるお楽しみ動画、祈りの木プロジェクトの葉、工作キット(奥多摩のヒノキを使った表札作り)を郵送で送りました。48名の参加者が与えられ、CSや教会のイベントとしても利用していただきました。右の写真は参加者のヒノキの表札作品の一部です。



小学生講師の國分広士師



中高生はZoomを使った一日オンラインキャンプを実施しました。8月10日の14:00~18:00までオンライン上で楽しめるゲームや、学年別の分かち合い、メッセージや賛美の時間を持ちました。講師として鷺沼キリスト福音教会の東海林隆之師がみことばを取り次いで下さいました。完全オンラインではなく湘南ライフタウンキリスト教会を会場とし、普段そこに集っている中高生が会堂に集まり、そこでの集会を配信するという形での開催となりました。30名の参加者と12名の奉仕者と共に時間を過ごすことができました。



Zoomキャンプの様子

福音の家のキャンプに集う中高生にとって、数少ない同世代との交わりのお場なので、オンラインでも開催することの意味は大きかったと感じました。画面を通してですが、共に奥多摩福音の家で育ってきたキャンパー、またカウンセラーとリアルタイムで時間を過ごせることに参加者は喜んでいました。また、オンラインなので家から参加できるという手軽さもあり、忙しい受験生や初参加の中高生も多く与えられました。キャンプが終わってから感謝の言葉や次回開催についての提案など沢山の声をいただきましたが、中高生たち、カウンセラーたちが共通して望んでいることは「早く福音の家で”三密キャンプ”がしたい」でした。今日本中では”三密”を避けることを第一とした生活様式が定着しつつあります。コロナ禍でテレワーク、オンライン化が進む中、キャンプのあり方についても様々な可能性を考えています。しかしキャンプの魅力はまさしく”三密”だとオンラインのキャンプを通して改めて実感しました。オフラインでしか味わえない喜びと経験があります。そのことは将来も大切にしていなくてはならないと感じました。寝食を共にすることがキャンプ伝道(宿泊伝道)の魅力であり強みだと思います。共に時間を過ごす中でキリストを証し、みことばを味わう恵みはオンラインでは代用できません。こうしてオンラインでのキャンプが実施できたことに感謝しつつ、1日も早くこの事態が収束し、奥多摩福音の家でのキャンプが再開できることをお祈りしています。



寄書きの祈りの木

今後の主催キャンプについて、一部休業の中でできることを企画しています。

決まり次第告知致します。引き続き主催キャンプのことを覚えて祈りいただければと思います。

黒パン・DVD販売報告

はじめに、多くの皆様が黒パンとクッキーを購入してくださり、福音の家を応援してくださっていること、改めて感謝を申し上げます。

6月の販売開始より予想をはるかに上回る注文をいただき、これまで（8月を除き）毎週約60セットを生産、発送しています。9月までの総受注数では、クッキーは合計500袋超、黒パンはなんと1000本を超えました！ 6月中旬には既に1ヶ月、2ヶ月待ちのような状況にもかかわらず、ほとんどの方が「いつでもいいです。待っていますよ」と言ってくださり、リピートしてくださる方もいて、今も注文をいただいています。

「福音の家の味がお家で食べたい」という声を聞き、来てもらえないならお届けしよう！と始めたプロジェクト。受付から発送までの受注管理システムの構築など初めてのことに右往左往しつつ、また梅雨の時期のクッキー作りは奥多摩の湿度との戦いでもありました。しかし、到着した黒パンやクッキーがおいしかったとお礼や励まし、祈っていますというメールをいただいたり、受注時や発送時に懐かしいお名前を拝見するだけでも、福音の家が本当に多くの支援者の方々に祈られ支えられている、もう一度キャンプができる日を期待されていることを実感する機会でした。

今後は、10月28日発送分までの受付で一旦黒パンとクッキーの販売は休止し、クリスマスシーズン向けに期間・数量限定でのシュトーレン販売を計画しています。10月以降に順次お知らせをし、11月より予約受付開始の予定ですので、続けてお祈りいただければと思います。

内田和彦師の奥多摩聖書セミナーDVDはご好評をいただき、Blu-rayは完売致しました。DVDは在庫がまだありますのでご視聴されていない方はこの機会にぜひお申し込み下さい。

2020夏期利用のご報告

オンラインキャンプの開催やパンとクッキーの販売をする一方で、宿泊施設としての受入再開を模索するため、8月の第1週から3週にわたって、世帯限定・1泊2日の宿泊利用を実施しました。感染拡大防止のため、A館は受付／会計時以外は閉鎖、B館・新館にそれぞれ1フロア1世帯のみの滞在とし、共用トイレや集会室の利用もご遠慮いただきました。

食堂では3密を避け、テーブルごとの間隔を広くし、他世帯と十分な距離を取るようにご案内しました。朝食はファミリースタイルでしたが、夕食はお弁当箱での配膳を試行。通常と同じメニューでも個別の提供ができたこと、また多くのお客様に“特別”なスタイルとして楽しんでいただけたことは、今後の利用再開に向けて食事提供の可能性が広がったように思います。

そして最も話し合いを重ね細心の注意を払ったのは、清掃と消毒でした。通常の清掃マニュアルと宿泊業の感染防止ガイドラインを合わせて確認し、新たなチェックリストを作成。ドアノブやスイッチからシャワーカーテン、ソファやカーペット等、スタッフ全員で清掃と消毒を確認しながら実施しました。

今回の夏期利用では、ご利用いただいた方々には喜んでいただけたものの、従来のような集会を含む団体利用が当面の間難しいことや複数世帯での利用にも警戒が必要なことは浮き彫りになり、キャンプ場としての営業再開についてはまだまだ難しさを実感するものとなりました。



夕食のお弁当

運営委員会&ディレクターからのお知らせ

9月に入ってマスク姿ではありつつ社会生活はかなり回復したように見えます。感染者数も第二波がありましたが、少しずつ収束しているようです。しかし治療薬、ワクチン等に見通しはなく、三密を避け、マスク等による感染防止の「新しい生活様式」が続けて求められています。皆様の日々の生活も、教会の礼拝をはじめとした諸活動においても2月以前とは違う「新しい生活様式」の中にあると思います。その様な中、継続して奥多摩福音の家の働きを覚えて祈り支えて下さる方々が多くおられることを心から感謝しています。皆様のお祈りに支えられつつ、多くの制約はありましたが、ニュースレターで夏期の活動を報告できますことはとても感謝です。お読みいただき、共に主を讃美して戴ければと思います。

3月からの累積献金額は2,100万円を越えました。とても感謝しています。雇用調整助成金も支給され、今年いっぱい存続の危機がないことがハッキリしたのは大きな感謝です。また、金銭管理に係る修正、改善箇所も示されて、整えられていることも感謝です。

「出来ることをする」との方針に沿い、講師に菊池 実 先生(東京基督教大学神学科長)をお迎えしZoomを利用した「奥多摩Webセミナー」を11月28日(土)に行います。またオンライン中高生Winterキャンプも企画進行中です。近日中にご案内します。どうぞお楽しみに！

黒パン&クッキーは10月末で一時休止し、クリスマスシーズンに向けて11月~12月はシュトーレン販売を計画しています。詳細は後日ご案内します。

内田和彦先生の山上の説教に学ぶ奥多摩セミナーは好評によりBlu-rayは完売、DVDに在庫があります。価格は送料税込み5,500円です。ご希望の方はお問い合わせ下さい。

この様に明るい材料も多くありますが、次年度予算・計画に向け厳しさを覚えています。既に土日、祝日の奥多摩福音の家の周辺の道路は渋滞するほどの多くの観光客が訪れ、通常営業再開を願う声があります。しかし9月中旬時点で奥多摩町の新型コロナ感染者は0名で、地域住民は観光客を受け入れつつ、最初の感染者への緊張感に満ちています。近隣の証しも考慮するとき、夏期営業と同程度の感染防止対策は必須で、検討を重ねて9月21日~12月31日まで休業としました。

また年間4,000名の利用者で赤字ギリギリですが、感染者リスクを避けた形態では到達困難です。このため、当面は献金のお願いをせざるを得ないと判断しています。ご提案、ご意見がありましたらメール、Fax、お手紙でお寄せを戴けますなら感謝です。

湿気が多い奥多摩での施設の長期利用停止は様々な支障を生じています。寝具にダメージが生じ、各所にカビが生え、対策に手の回らない箇所が増えています。年末に向けて清掃等のボランティアをお願いする可能性があります。その際はご協力下されば感謝です。

新型コロナウイルス(COVID-19)の感染収束も、奥多摩福音の家の存続も依然として不透明で、明確なものはありません。しかし神様には全てを益とされるご計画があると信じます。奥多摩福音の家の働きに携わるスタッフや運営委員だけでなく、神様を中心に多くの方の祈りと協力によって支えられています。奥多摩福音の家が主に仕え、宣教に用いられるために続けて祈りに覚えて下さいますよう、心からお願い致します。

奥多摩福音の家 事務局

〒198-0105 東京都西多摩郡奥多摩町小丹波135

Tel : 0428-85-2317 Fax : 0428-85-2370

URL : <http://www.ofi.camp> Email : info@ofi.camp

郵便振替口座 : 00170-5-92451 名義 : 奥多摩福音の家